

令和2年度 東京都立北園高等学校
推薦に基づく選抜

小論文

注意

- 1 問題は、**1** から **2** までで、**6ページ**にわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は**50分**で、終了時間は**9時50分**です。
- 3 声を出して読んではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、**解答用紙だけを提出**しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 **受検番号**の下4けたを解答用紙の決められた欄に書きなさい。
(受検番号の上3けたは印刷してあります)
- 7 句読点「、」「。」、かぎ「〔」「〕」は、それぞれを1字に数えなさい。
また、下の【例】のように、算用数字とアルファベットの小文字は半角（1マスに2文字）、アルファベットの大文字は全角（1マスに1文字）扱いとして書きなさい。

【例】

3	34	kg	42	.3	m ³	1	03	00	T	o	k	y	o
---	----	----	----	----	----------------	---	----	----	---	---	---	---	---

1 以下の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

主に家庭で使用され、原則として想定耐用年数が1年以上で比較的購入価格が高いものを「耐久消費財」という。

2 ページの図1は、主な耐久消費財の世帯普及率の推移を表したものである。

3 ページの図2は、「人口5万人未満の市」、「県庁所在地市」、「大都市」における乗用車の世帯普及率の推移を表したものである。ここで言う「大都市」は、「札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、東京23区、横浜市、川崎市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市、熊本市」を指し、これらは「県庁所在地市」には含まれない。

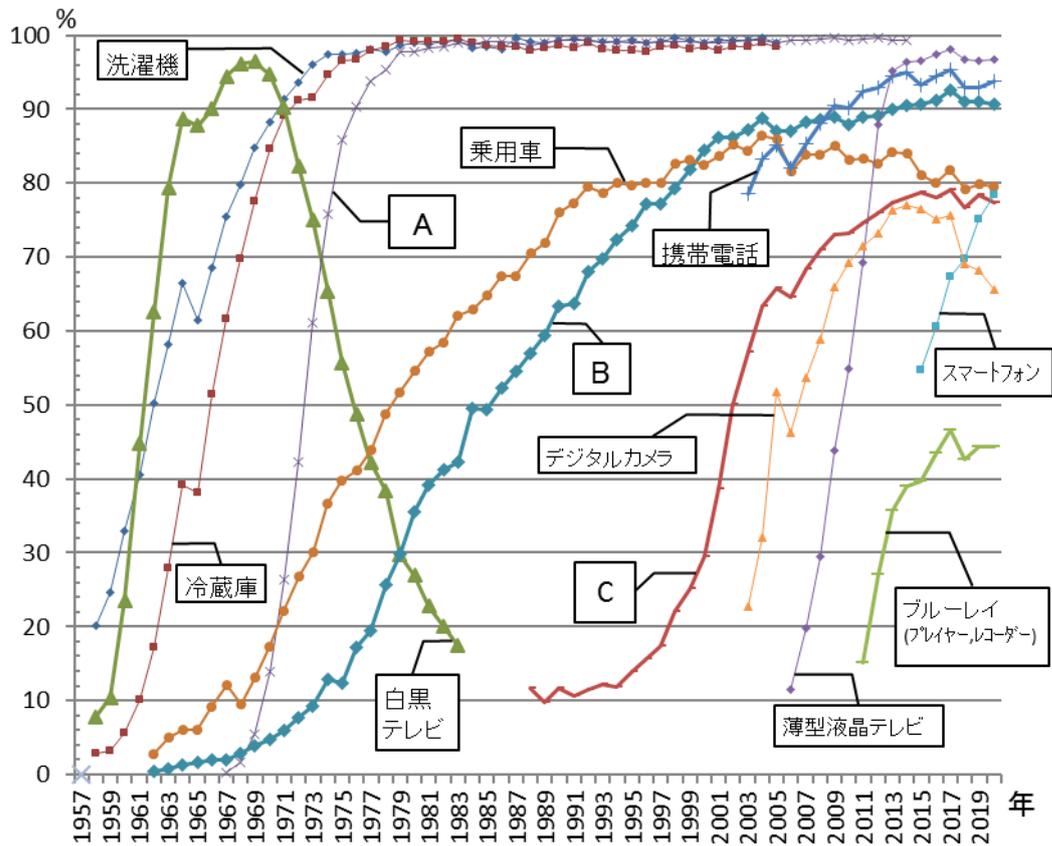


図1：耐久消費財の世帯普及率の推移（内閣府「消費動向調査」より作成）

※**A**は、2014年から調査が代替品と統合されたため、**A**単独でのデータは2014年以降掲載していない。

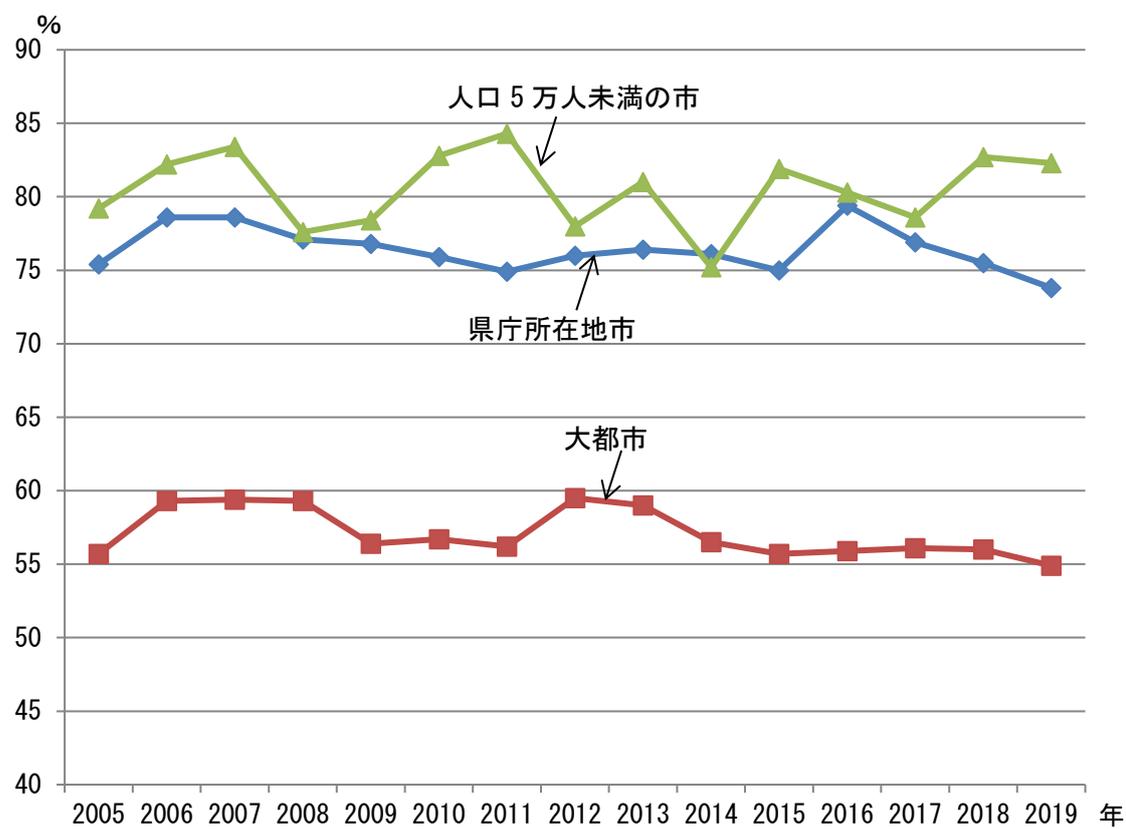


図2: 乗用車の世帯普及率の推移(内閣府「消費動向調査」より作成)

問1 図1の **A**、**B**、**C** は、それぞれ以下の**ア**、**イ**、**ウ**のいずれに該当するか。その組み合わせとして最も適切なものを以下の1～6の中から一つ選び、番号で答えなさい。

ア ビジネスの分野から普及し、その後家庭にも急速に広まった。文書作成や表計算、インターネットでの情報収集など日常生活の多くの場面で活用されている。近年、スマートフォンなどの出現により普及率が停滞している。

イ 住環境を整えるための家電である。昨今の酷暑で、これの適切な利用が呼びかけられている。普及率が20%を超えてから60%に達するまでに10年以上を要した。

ウ 「新三種の神器」の一つである。東京オリンピックの頃から価格が低下し、普及率が上がった。家族団らんの象徴的な存在でもあったが、生活スタイルの変化により、その役割が失われつつある。

- 1 [A-ア B-イ C-ウ]
- 2 [A-ア B-ウ C-イ]
- 3 [A-イ B-ア C-ウ]
- 4 [A-イ B-ウ C-ア]
- 5 [A-ウ B-ア C-イ]
- 6 [A-ウ B-イ C-ア]

問2 図1からは、多くの耐久消費財の世帯普及率は、ある程度上昇した後は横ばいとなり、代替品が出ない限り下降することはないことが読み取れる。これは、家庭で使用され始めた耐久消費財が、買い替えられながら長期的・継続的に使用されていることを示している。しかし、乗用車の世帯普及率は2005年頃を境に緩やかに下降している。これには様々な要因が考えられるが、その一つとして、今まで乗用車を保有していた人が手放し始めていることが挙げられる。

また、図2からは、「人口5万人未満の市」、「県庁所在地市」、「大都市」のいずれでも乗用車の世帯普及率はほぼ横ばいで、下降していないことがわかる。

図1、図2から読み取れるこのような現象は、どのような人の存在によって起こり得るか。以下のア～エの中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。また、それらの人が乗用車を手放すのはなぜか。あなたの考える具体的な理由を二つ挙げ、それぞれ40字以上50字以内で書きなさい。

- ア 「人口5万人未満の市」、「県庁所在地市」から「大都市」への転居を機に乗用車を手放す人。
- イ 「大都市」から「人口5万人未満の市」、「県庁所在地市」への転居を機に乗用車を手放す人。
- ウ 元々「人口5万人未満の市」、「県庁所在地市」に居住し、乗用車を手放す人。
- エ 元々「大都市」に居住し、乗用車を手放す人。

2 以下の文章を読んで、後の問に答えなさい。

図1の耐久消費財を始めとして私たちの日常生活で使われる様々なモノは、日々変化している。このことについて、あなたのクラスでディベート（討論）を行うことになった。モノの変化を肯定するAチームと、モノの変化を否定するBチームとに分かれ、それぞれの立場で論拠を挙げて主張をする。あなたはBチームの一員である。

問 以下の【Aチームの主張】を読み、【条件】1～5に従って、解答用紙の【Bチームの反論】を完成させなさい。

【Aチームの主張】

私は効率性という観点からモノの変化に賛成だ。例として、洗濯機、掃除機、冷蔵庫などの登場を挙げたい。これらは発売後も新たなモデルが作り出されるたびに機能やデザインが改良され、使いやすくなった。このような変化の結果、私たちは家事にかかる時間や労力を劇的に減らし、余った時間を有効に使えるようになった。旅行をして見聞を広めたり、趣味を楽しんだりすることも可能になった。また、ボランティアとして活動したり、仕事をして更なるよいモノを作り出すなど、社会貢献の度合いも増大した。

モノの変化は必然的であり、それは私たちに限られた時間を無駄なく活用できる生活をもたらしてくれる。今後もモノは様々に変化し、私たちの暮らしを一層豊かなものにするだろう。人間がより良い暮らしを目指して努力や工夫を重ねたことの結実がモノの変化であり、それは評価されるべきものだとは私は考える。

【条件】

- 1 解答用紙の【Bチームの反論】は三段落で構成されている。その第一段落と第二段落を書きなさい。
- 2 第一段落は、解答用紙の「Aチームはモノの変化の効用として効率性を挙げているが、私はその意見に反対だ。なぜなら、」に続けて書き、【Aチームの主張】の第一段落（「私は～増大した。」）の内容に反論しなさい。
- 3 第二段落は、解答用紙の「また、その他の観点から見たモノの変化の弊害としては、次のことが挙げられる。」に続けてBチームとしての考えを書きなさい。なお、「その他の観点」は一つだけ挙げなさい。
- 4 第一段落、第二段落は、それぞれ150字以上200字以内で書きなさい。
- 5 句読点「、」「。」、かぎ「『』『』」なども1字に数えなさい。